

本県のキャンプ地誘致の取組について

平成28年9月7日

栃木県 総合政策部 総合政策課



栃木県

Tochigi Prefectural Government

目次

1	平成26年度までの取組について	1
2	平成27年度取組について	
(1)	キャンプ地誘致	3
(2)	観光客受入環境整備	9
3	平成28年度取組について	
(1)	キャンプ地誘致	10
(2)	機運醸成	16
(3)	観光客受入環境整備	16

1 平成26年度までの取組について

① 「東京オリンピック等キャンプ地誘致等庁内推進本部」の設置 (H25. 10)

※H27. 4 「東京オリンピック・パラリンピック等とちぎ戦略本部」に改称

② 日本語版・英語版パンフレット等を活用したPR活動 (H26年度～)

- 大会組織委員会、JOC、国、東京都、国内各競技団体、駐日大使館等へ配付
- リーフレットは県民の気運醸成等に向け、各種イベント等で配付



③ 英国大使館への知事トップセールス（H26. 7. 31）

➤PRパンフレットを活用し、ホッケーやラグビーのキャンプ地としてPRを行う。

④ オーストラリア陸上競技連盟による本県視察（H26. 10. 14～15）

➤2015北京世界陸上競技選手権大会に向けたキャンプ地視察が、栃木県と和歌山県で行われる。
※結果的に和歌山県で実施

⑤ 誘致戦略の策定（H26. 12. 24）

○エリア設定

➤競技施設と宿泊施設、その他周辺情報をセットで提示するため、利用可能な施設の分布を考慮し、県内6つのエリアを設定 ※誘致意向のある20市町で構成

○重点誘致競技の選定

➤陸上、水泳、バスケット、自転車、サッカー、ホッケー、ラグビー（RWC 2019含む）、アイスホッケー（2018平昌）の8競技を選定して、重点的に誘致を進める。
⇒ スポーツ関係者、県内4プロチーム、企業、国際交流団体等へアプローチ開始

2 平成27年度の取組について

(1) キャンプ地誘致

ア 事前キャンプの受入れ

2015北京世界陸上競技選手権大会に向けたハンガリー陸上競技選手団の事前キャンプ受入れ（H27. 8. 12～20）

➤ キャンプ場所：県総合運動公園陸上競技場

➤ キャンプ期間：8月12日～20日 ※世界陸上開催日程：8月22～30日

➤ 参加人数：選手6名、コーチ5名（計11名）

✦ 代表的選手 ✦

パルシュ・クリスティアーン選手（男子ハンマー投げ）

2012年ロンドンオリンピック 金メダル

2015年北京世界陸上競技選手権大会 4位

マールトン・アニタ選手（女子砲丸投げ）

2015年北京世界陸上競技選手権大会 4位

2016年リオデジャネイロオリンピック 銅メダル

➤ 宿泊ホテル：宇都宮東武ホテルグランデ

➤ 受入スタッフ：栃木県職員、宇都宮市職員、栃木陸上競技協会職員、通訳（県国際交流員ほか）、看護師（高校職員）、高校生陸上部ボランティア（宇都宮北高、宇都宮中央女子高、青藍泰斗高等）



○選手団との交流～歓迎セレモニー 8月13日(木)

✦参加者

栃木県知事、宇都宮市長、県及び市関係各部局、栃木陸上競技協会、県内高校生陸上部ボランティア、ハンガリー陸上競技選手団、ハンガリー駐日臨時代理大使

✦選手団への提供品及び記念品

県 県産果物（ぶどう、いちご）、烏山和紙の扇子

市 野菜、ミネラルウォーター、大谷石のコースター、宮染めの手拭い



○選手団との交流～公開練習 8月15日(土)、8月17日(月)

✦見学者：約350名（15日 300名、17日 50名）

※練習終了後には、見学者との写真撮影やサイン会を実施



○選手団との交流～スポーツ教室 8月17日(月)

✦参加者：陸上競技に取り組む県内の中学生9名、高校生9名の計18名

※宇都宮市、真岡市、さくら市、小山市、足利市から参加

✦指導者：コーチ（男子10種競技元選手）、選手（女子7種競技）



○選手団との交流～その他の交流

- 5月28日 : 事前キャンプに先立ち、知事と宇都宮市長がハンガリー大使館を表敬訪問
- 8月15日 : 選手団を「大谷石夢あかり」祭、大谷資料館に案内（宇都宮市）
- 8月16日 : 選手団を市内スポーツ用具店、家電販売店に案内（宇都宮市）

※キャンプ終了後、ハンガリー陸上競技連盟より以下のメッセージが送られる。



メール（抜粋）

- 今回関わった全ての方々に多大な謝意
- 選手達の結果は、熱意のこもった緻密な働きなしにはなかったものと確信
- 将来的にもキャンプ候補地としてリストアップ
- ハンガリーと栃木の交流にも助力

Kitartás Kedvesség
Megbecsülés Fegyelmezett
Integritás Figyelmisség
Derű Hit
Szervezett Hajrá **Tisztelet** Figyelem
Pontosság Odafigyelés
Alázat Jókedv Boldogság Tökéletes
Alaposság Törődés



Shinsetsu
Reibari
Tettei Subarashii
Yoku Kenson Genki
Kikubari
Ganbatte
Shizukesa
Yakkai Seikaku
Shinko
soshikisareta

イ 視察受入れ・プレゼンテーション

① オーストラリア・ラグビー協会による視察受入れ (H27. 7. 16~18)

➤練習施設：今市青少年スポーツセンター、日光市ホッケー場、県総合運動公園ラグビー場、栃木県グリーンスタジアム、宇都宮市清原体育館、那須塩原市青木サッカー場、佐野市運動公園、佐野高校（ラグビー交流会開催）

➤宿泊施設：ホテルマイステイズ宇都宮、りんどう湖ロイヤルホテル、ホテルエピナール那須

※最終日は、ラグビーに取り組む高校生や指導者など 100名を超える関係者との交流会を開催



② アフリカ14か国の大使に対するプレゼンテーション (H27. 10. 16)

➤対象：エチオピア連邦民主共和国、ガーナ共和国、ガボン共和国、カメルーン共和国、ケニア共和国、コートジボワール共和国、コンゴ共和国、ジブチ共和国、セネガル共和国、ナイジェリア連邦共和国、ベナン共和国、マラウィ共和国、モロッコ王国、レソト王国



③ 北米女子アイスホッケープロチームへのキャンプ地誘致プレゼンテーション (H27. 12. 16)

➤対象：NWH L (National Women' s Hockey League) コミッショナー兼
ニューヨーク・リベターズGM

ニューヨーク・リベターズHC



ウ その他の取組

① 新たなPRツールの作成等

➤新たなPRツールの作成（H27.12.22公表）

- ・ガイドブック
- ・動画DVD
- ・専用ホームページ（<http://www.pregames-trainingcamps-tochigi.jp/>）

※県内15市町にある競技施設及び宿泊施設等を掲載

➤全国知事会のデータベースサイト「Sports Camp Japan」への施設掲載（H27.10.30開設）

<http://sportscamp.jp/>

② 研修会等の開催

➤東京オリンピック・パラリンピック等に向けた連絡調整会議の開催（H27.10.5開催）

北京世界陸上選手権大会におけるハンガリー事前キャンプ受入れ、「東京オリンピック・パラリンピック等に向けたとちぎビジョン」の策定、ホストタウン等

➤キャンプ地誘致等に向けた研修会の開催（H28.2.2開催）

ラグビーワールドカップ2019キャンプ地誘致（講師：組織委員会理事）、ホストタウンの推進（講師：内閣官房オリパラ推進本部担当者）

(2) 観光客受入環境整備

- 県有施設における環境整備 【総合政策部、県民生活部、環境森林部、保健福祉部、農政部、県土整備部】
 - 施設案内標識の多言語化
 - トイレ洋式化
 - 県管理道路案内標識の多言語化
 - 遊歩道案内標識の多言語化

- 自然公園内の案内標識の多言語化 【環境森林部】

- 魅力ある観光地づくりプログラムの策定及び観光エリアごとの推進体制の整備 【産業労働観光部】
 - 外国人観光客等受入環境実態調査、外国人向け観光資源発掘調査等
 - プログラムの策定
 - 推進体制の整備

- 県有施設におけるWi-Fi整備 【総合政策部、施設所管部局】

- 民間施設におけるWi-Fi整備等 【産業労働観光部】
 - 整備費用の助成
 - 外国人観光客向け無料Wi-Fiサービスの普及

3 平成28年度の取組について

(1) キャンプ地誘致

ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

(ア) ハンガリー選手団の誘致及びホストタウン登録

○世界陸上選手権大会の事前キャンプ受入れを生かし、ハンガリー選手団の誘致を目指す。

➢事前キャンプ受入れにより築いた同国陸上競技連盟や駐日ハンガリー大使館等との繋がりを生かし、更なる関係の強化を図る。

○ハンガリーを相手国とした「ホストタウン」の登録(H28. 6. 14)

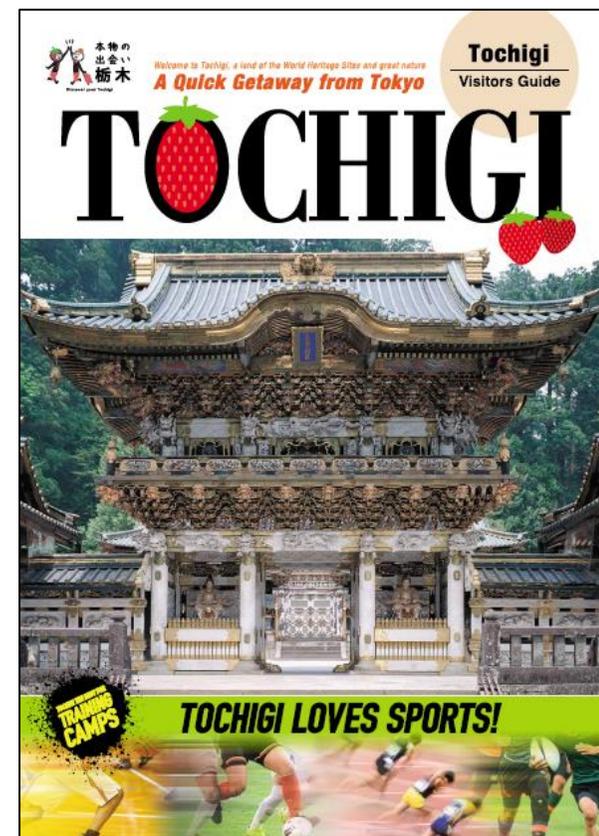
➢ホストタウンは国が進める登録制度で、地方自治体が、東京オリンピック・パラリンピックへの参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を通じて地域の活性化等を図るものである。

➢本制度を活用しながら、ハンガリー選手団のキャンプ誘致を推進していく。

栃木県交流計画の概要		団体名	栃木県
		相手国・地域	ハンガリー
2016～ (大会開催まで)	2020 (大会中)	2020～ (大会直後～)	
キャンプ地誘致活動の推進 受入体制整備 総合スポーツゾーン 「新スタジアム」 (2020年3月完成予定) 	事前キャンプの受入れ (陸上競技を主とする各競技) ・県内競技関係者及び地域住民によるサポート 等 事前キャンプ中の交流 ・歓迎イベント ・公開練習 ・スポーツ教室 等 ハンガリー選手団の応援 ・サポーター組織による応援 等 大会参加後の交流 ・報告会 ・県内訪問 等 	スポーツによる ブランド力の向上 ⇒ 県内スポーツの活性化(する・観る・支える) ☆ 他競技大会における合宿受入れ ☆ 選手との交流 ☆ 2022年に栃木県で開催される国民体育大会・全国障害者スポーツ大会も見据えた選手育成 等 	
オール栃木体制での取組 「とちぎビジョン推進協議会(仮称)」の設置(2016年) 東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成とハンガリーの理解促進 【協力者】 ・日本人オリンピック・パラリンピアン ・ハンガリー関係者(在日大使館職員等) ・ワグナー・ナンドール記念財団 【イベント】 ・シンポジウム及び 県政出前講座の実施 ・スポーツ教室等の開催 ・ハンガリー紹介ガイドの作成 ・食や文化イベントの開催 ・国際交流協会と連携したグローバルセミナー 	サポーター組織の形成 	交流の継続 サポーター組織の活用 民間交流の活性化 ⇒ 下記分野における交流促進 ☆ 国際理解 ☆ 文化 ☆ 農業 等 	

(イ) リオ大会におけるPR

- リオデジャネイロ大会の機会を捉えた効果的なPRの実施
 - 民間への委託により、大会開催期間中の現地PR活動の実施し、各国選手団の誘致を目指す。
 - 現地で開催されたレセプションパーティー等で各国オリンピック委員会関係者等へアプローチ
- 「ジャパンハウス」への出展 (H. 28. 8. 5~8. 21、9. 7~9. 18)
 - ジャパンハウスは、東京2020大会組織委員会、東京都、JOC、JPCが中心となり、リオデジャネイロにおいてオリンピック及びパラリンピックの開催期間中に、開催都市・東京や日本をPRするために設置された。
 - 会場には、全国の道府県をPRする場も用意され、本県は日光東照宮のパネルの展示、観光とキャンプ地誘致に関する情報を掲載した専用パンフレットの配布を行った。



(ウ) 「Tokyo2020 事前トレーニング（キャンプ）候補地ガイド」への登録

○東京2020大会組織委員会が、リオ大会に合わせて紹介リストを作成(H28. 8. 5公開)

県内5自治体11施設が掲載 <https://pregamestraining.tokyo2020.jp/jp>

※各競技国際連盟（IF）が定める練習施設基準を満たす施設のみが登録対象となる。

※追加種目の決定（野球・ソフトボール、空手、サーフィン、スケートボード、スポーツクライミング）を踏まえ、今後も追加登録が行われる予定

※ 総合スポーツゾーンの新スタジアム、新武道館は着工後申請予定

登録自治体	掲載施設	登録競技
栃木県	栃木県総合運動公園陸上競技場	陸上競技
	栃木県グリーンスタジアム	7人制ラグビー
	障害者スポーツセンター わかくさアリーナ	ゴールボール
栃木市	栃木市総合運動公園陸上競技場	陸上競技
鹿沼市	鹿沼総合体育館 フォレストアリーナ	卓球
日光市	日光市ホッケー場・今市青少年スポーツセンター	ホッケー
矢板市	ホテル&テニス コリーナ矢板	テニス
	メイフラワーゴルフクラブ	ゴルフ
	矢板カントリークラブ	ゴルフ
	アローエースゴルフクラブ	ゴルフ

(エ) その他の取組

○海外競技団体等の視察受入れ（リオ大会以降本格化する各国の動きに対応）

➤オーストラリア水泳連盟による小山市視察(H28. 5. 25)

- ・昨秋、小山市長等が同連盟を現地訪問したことが契機となり同連盟ゼネラルマネージャー等が県立温水プール館の視察を行った。
- ・同連盟は、日本滞在中に、兵庫県神戸市、静岡県富士市、新潟県長岡市の施設も訪れており、これらの中から年末までにキャンプ地を決定する方針



イ 2018 平昌冬季オリンピック・パラリンピック

➤アイスホッケー競技を主とした誘致を目指す。

人脈を生かした各国競技連盟への働きかけ、県アイスホッケー連盟や栃木日光アイスバックス等からの情報収集とアプローチ

➤開会式 2018年2月9日 閉会式 2018年2月25日

➤開会式 2018年3月9日 閉会式 2018年3月18日

ウ ラグビーワールドカップ 2019

○大会の概要

ラグビーワールドカップ 2019™ 大会概要				
主催	ワールドラグビー™ (World Rugby™)			
運営主体	公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会			
開催期日	2019年9月20日(金)～11月2日(土) 44日間			
開催都市及び試合開催会場	札幌市	札幌ドーム	愛知県・豊田市	豊田スタジアム
	岩手県・釜石市	釜石鶴住居復興スタジアム(仮称)	大阪府・東大阪市	東大阪市花園ラグビー場
	埼玉県・熊谷市	熊谷ラグビー場	神戸市	神戸市御崎公園球技場
	東京都	東京スタジアム	福岡県・福岡市	東平尾公園博多の森球技場
	神奈川県・横浜市	横浜国際総合競技場	熊本県・熊本市	熊本県民総合運動公園陸上競技場
	静岡県	小笠山総合運動公園エコパスタジアム	大分県	大分スポーツ公園総合競技場
参加チーム	20チーム ※ うち12チームは、RWC2015の成績により自動的にRWC2019出場権を獲得 (アイルランド、アルゼンチン、イタリア、イングランド、ウェールズ、オーストラリア、ジョージア、スコットランド、日本、 ニュージーランド、フランス、南アフリカ)			
試合数	48試合			
試合方法	予選プール・決勝トーナメント ・ 参加20チームを5チーム、4プールに分け、総当たり戦を実施 ・ 各プール上位2チームが決勝トーナメントに進出			
大会の特徴	1. アジアで初のワールドカップ 2. ラグビー伝統国以外での初のワールドカップ 3. ラグビー7人制がオリンピック種目に採用されてから最初のワールドカップ			

○ “公認チームキャンプ候補地” 決定までの流れ（予定）

平成28年 5月	募集要項発表
平成28年 8～12月	自治体からの応募受付
平成29年 1～ 4月	組織委員会による実地審査
平成29年夏～	公認チームキャンプ候補地の承認
平成29年秋～	組織委員会によるチームへの情報提供
平成29年秋～30年春	チームによる実地視察（1回目） → 公認チームキャンプ地決定（以後、順次）
平成30年秋～31年春	チームによる実地視察（2回目）
平成31年夏～秋	公認チームキャンプ地としての受入準備
平成31(2019)年9月20日～11月2日	ラグビーワールドカップ2019開催



(2) 機運醸成

- 機運醸成シンポジウムの開催 (H28.11)
 - ・東京2020オリンピック・パラリンピックのムーブメントを県内に広めるため、日本人オリンピックアン・パラリンピアンによる講演と、有識者と県内関係者によるパネルディスカッションを実施する。
- 機運醸成ウェブサイトの構築 (H29.3)
 - ・県民や団体を対象とした、オリンピック・パラリンピックに向けた取組・アイデア等の募集・紹介・マッチング等を行うウェブサイトを構築する。

(3) 観光客受入環境整備

- 県有施設における環境整備 【総合政策部、県民生活部、環境森林部、保健福祉部、農政部、県土整備部】
 - トイレ洋式化
 - 県管理道路案内標識の多言語化
 - 遊歩道案内標識の多言語化
- 自然公園内の案内標識の多言語化 【環境森林部】